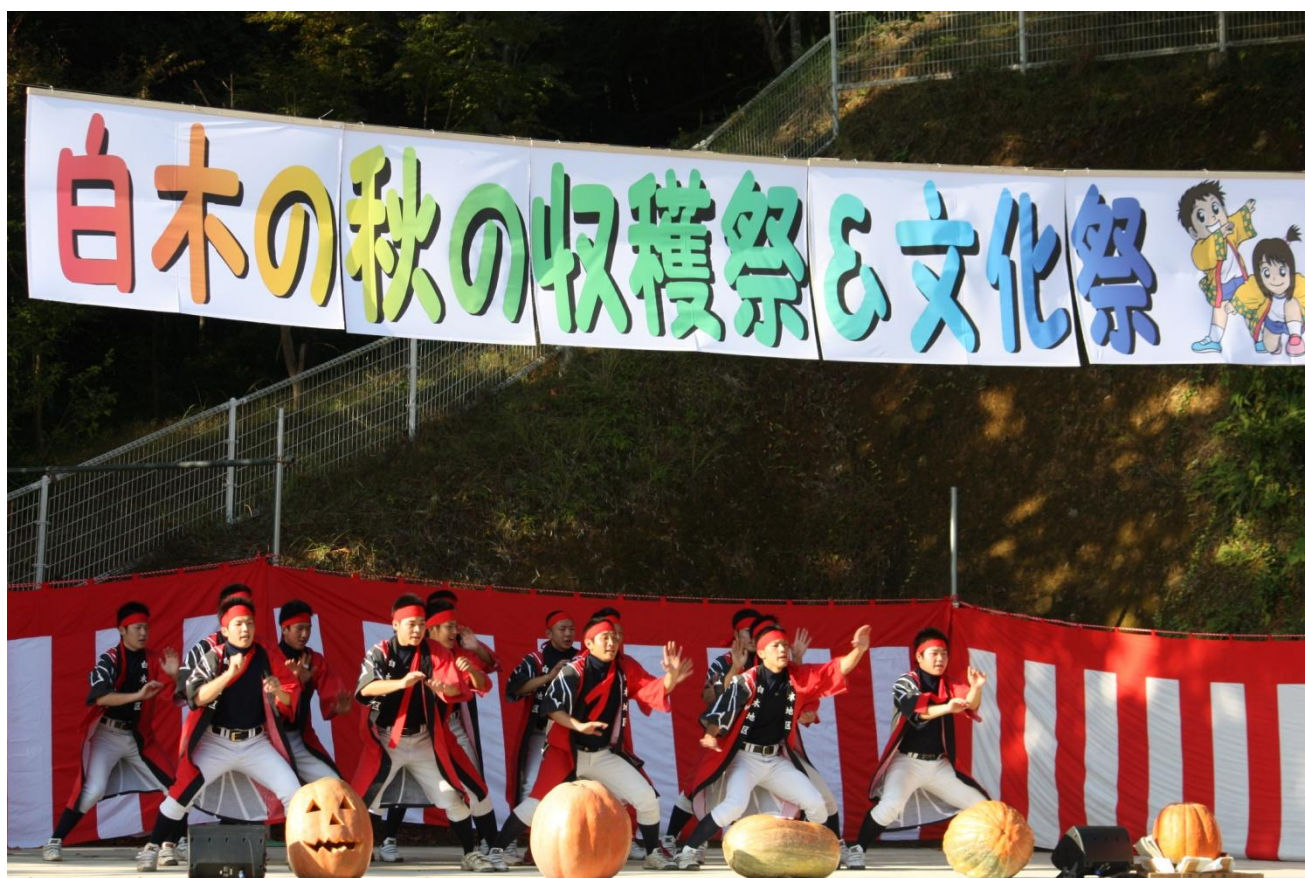


# 白木地区地域振興計画



平成26年4月

白木地区地域振興会議

## 目次

### 第 1 はじめに

#### 1 計画策定の趣旨（目的）

### 第 2 地域の概況

#### 1 地域の概況

### 第 3 地域活動の現況

#### 1 地域活動の現況

### 第 4 白木地区のめざす将来の姿

#### 1 基本理念

#### 2 基本目標

### 第 5 将来の姿の実現に向けて

#### 1 取り組み内容

#### 2 推進体制

#### 3 取り組みのまとめ（実施計画書）

### 付属資料

#### 1 白木地区地域振興計画策定委員名簿

#### 2 アンケート調査集計結果

## 第 1 はじめに

### 1. 計画策定の趣旨（目的）

近年、人口の減少、少子高齢化、個人の価値観の多様化が進展するなど社会情勢が大きく変化しており、行政だけでは対応できない課題が山積しています。

そのため、市民と行政がよりよいパートナーの関係を築き、相互が役割と責任を担い、協働でまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

白木地区地域振興会議では、地域の現状や課題を明らかにするため平成24年度、熊本大学徳野教授協力による集落点検（一ノ瀬の一部・持山・鹿伏）や平成25年度実施の白木地区まちづくり住民アンケート調査を行いました。その結果を踏まえて、将来のあるべき姿や理想とする地域像をワークショップや地域振興計画策定委員会・白木地区地域振興会議役員会等で協議し、概ね10年後の地域の将来像を実現するための手段や課題解決に向けた基本的施策を年次計画書（地域振興計画）としてまとめました。

今後は、この計画に基づき、白木のもつ豊かな自然を大切にし、白木住民が互いに思いやる、人にやさしいくらしをつくることを目指し、地域住民主体の地域づくりを展開していきます。

## 第 2 地域の概況

### 1. 地域の概況

白木地区は、八女市立花町の南西部に位置し、南北 7.5 km・東西 4.5 km の細長い地形であります。また地区のほぼ全域が急傾斜地区に属し、平地が少ない地域であるため、住民の多くが土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域に住居を構えています。

産業は農業が主体で伝統的なミカン・筍・キウイや梅の生産が盛んな地区です。しかし、過去のミカン生産価格の暴落以降、若年農業後継者が育たない状況が続き、地区外への転出者や未婚者が多くなっています。その結果、兼業農家や脱農業世帯が増え、高齢者世帯の増加を引き起こす要因となっています。

- (1) 世帯数 557 戸、人口 1,708 名（平成 25 年 11 月末現在）
- (2) 白木の主要道路
  - ・ 南北に県道 4 号線・東西に県道 805 号線（通称オレンジロード）
- (3) 白木の主要河川
  - ・ 南北に白木川
- (4) 行政区（行政区及び集落ごとの世帯数及び人口は別紙掲載）
  - ・ 1 区 一ノ瀬・今屋敷・平野・田楽原・菖蒲尾
  - ・ 2 区 土野々・中村・持山・大上（通称 本山）
  - ・ 3 区 三社下・三社上・宮ヶ原・長畑・鹿伏・桐葉
- (5) 消防組織・設備関係及び救命措置関係（平成 25 年度末現在）
  - ① 八女市立花町消防団白木分団 分団詰所・・・今屋敷・合の原
    - ・ 車両 2 台 ・ 普通ポンプ車・・・今屋敷詰所（旧 4 分団詰所）
    - ・ 軽可搬ポンプ積載車・・・合の原詰所（旧 5 分団詰所）
    - ・ 人 員・・・団 員 58 名
    - 内エキスパート団員 19 名
  - ② 自主防災会（自警団）・・・代表は行政区長
    - ・ 1 区・・・一ノ瀬詰所（可搬ポンプ）人員 10 名（一ノ瀬）
    - 今屋敷詰所（可搬ポンプ）人員 20 名（今平菖田）
    - 今屋敷・・・小型ポンプ（口径 40 mm）集落で維持管理
    - 菖蒲尾・・・小型ポンプ（口径 40 mm）集落で維持管理

\* 特記 一ノ瀬集落には、上水道設置と同時に消火栓を設置  
平野集落には、自然落差式消火栓を設置

- ・ 2 区・・・本山詰所（可搬ポンプ） 人員 16 名
- ・ 3 区・・・三宮詰所（可搬ポンプ） 人員 18 名
- 長桐鹿詰所（可搬ポンプ） 人員 13 名

③ A E D 設置箇所

- ・ 白木コミュニティーセンター
- ・ 八女市立筑南中学校
- ・ 白城の里旧大内邸
- ・ 八女市夢たちばなビレッジ

(6) 交通安全に関する団体及び警察関係

- ・ 八女交通安全協会白木支部 支部役員 3 名
- ・ 交通安全指導員 15 名（各集落より 1 名選出）
- ・ 八女警察署北山駐在所より巡回指導及び巡視

(7) 施設・医療施設（地区内外からの来訪者に対応可能な施設）

- ・ 森の里クリニック・デイサービス・小規模多機能ホーム
- ・ 白城の里旧大内邸（食事の提供・コンサート等）
- ・ 八女市夢たちばなビレッジ  
（オートキャンプ・キャンプ・宿泊・研修・ピザ焼窯・陶芸教室等体験）
- ・ 大道谷の里（宿泊・食事の提供・農家体験等）

(8) 地域住民の集いの場

- ・ 白木コミュニティーセンター
- ・ 旧白木小学校

(9) 公的機関及び金融機関

- ・ 八女市立筑南中学校
- ・ 福岡八女農業協同組合白木支店
- ・ 白木郵便局

### 第 3 地域活動の現況

#### 1. 地域活動の現況

当地区の行政区は、旧立花町時に行われた行政改革により 15 行政区から 3 行政区に統合されています。現在それぞれの行政区で地域活動が行われていますが、未だに多くの活動は旧行政区単位が中心となっています。これは統合による行政区活動への移管が、集落の財産権の問題には踏み込めなかったことが要因だと思います。

旧 15 行政区では、現在でもコミュニティー活動の拠点として、公民館や研修センター・自主防災会（自警団）を維持しています。また、納骨堂や神社なども旧行政区単位で管理しています。これらを維持管理するため、年度毎に世帯回しや年齢による順番制の方法で世話人を選出しています。例えば、40 世帯の旧行政区では、世帯回しの順番では 40 年に 1 回当番が回ってきていました。しかし現在は、高齢者世帯や転出による空き家の増加で、世話人の人選に苦慮している旧行政区が増加しています。この状況は今後さらに加速し、若年の世帯後継者に負担を増やしていく可能性を含んでいます。

婦人会や J A 女性部については、活動が停滞している集落が多く、全体的に衰退しています。要因として女性の仕事、家事、子育て、老人の世話等の負担が増え、時間の余裕が取れなくなっていることが考えられます。ただ一部では少人数のグループで活発に活動している集落もあります。今後、白木地区の活性化を推進していく上で女性の活動は必要不可欠であり、積極的に活動できる体制や地区民の意識改革を図っていく必要があります。

- (1) 各種団体活動（集落単位及び個別を除く）前記の施設等の利用団体
- ・商 工 会・・・地区内商工業者が加入活動中
  - ・婦 人 会・・・全集落で解散
  - ・老人クラブ・・・白木全体での活動なし 集落単位で活動中
  - ・J A 女性部・・・4 集落のみ活動中
  - ・グラウンドゴルフ・・・旧白木小学校で週 2 回活動中
  - ・もみじ太鼓・・・旧白木小学校体育館で定期的に練習中
  - ・カラオケ教室・・・白木コミュニティーセンターで週 1 回開催
  - ・生け花教室・・・白木コミュニティーセンターで月 2 回開催
  - ・青空の会・・・ボランティア活動

- ・白木地区地域振興会議・・・白木コミュニティーセンターに事務局を  
構え一年をとおして活動中

## (2) 地域活動

### 【行政区等主催】

- ・白木敬老会
- ・グラウンドゴルフ大会を開催（防災訓練を実施）1、3行政区
- ・オレンジロードの草刈り作業

### 【地域振興会議主催】

- ・白木スポーツフェスティバル
- ・白木の秋の収穫祭・文化祭
- ・旧白木小学校グラウンド及び山林の整備  
(年3回実施。また、校舎の換気、清掃点検を週1回実施)
- ・筑南小、中学校への支援
- ・旧白木小学校の維持管理
- ・イノシシ対策支援
- ・白木新聞の発行
- ・コミュニティーセンター整備等
- ・一人一日一円募金（しらきんこ）・・・募金は白木地区の活動に充当
- ・婚活事業

## 第4 白木地区のめざす将来の姿

### 1. 基本理念

#### 「地域を活かした、人にやさしいくらしづくり」

白木地区は、自然豊かな土地で、みかん・キウイ・筍や梅など商品作物の生産が支えてきた農村集落です。

現在は、農林業の不振により、兼業農家やサラリーマン化が進行し後継者不足が課題となっています。また、平成22年に立花町の合併、翌年白木小学校の合併に伴い、若年層人口が近隣の市町村に流出し、地域が衰退してきています。

しかし、当地区で開催する「白木スポーツフェスティバル」や「白木の秋の収穫祭」などのイベントや農繁期には、近隣市町村居住の若年層世代がかけつけて地域活性化に尽力している状況です。

白木のもつ豊かな自然や白木住民のおもてなしの心を魅力として次世代に伝え、今後白木に定住してもらう若年層を増やすことや高齢者が安心して生活できる地区、そして住みやすい地域づくりを目指していきます。

### 2. 基本目標

1. 高齢者・子供、人にやさしいくらし
2. 地域資源を活かしたくらし
3. みんなで支え合うくらし
4. 安全安心なくらし



## 第5 将来の姿の実現にむけて

### 1. 取り組み内容

白木地区の将来の姿を実現させるために、4つの基本目標を定め、主要施策を示し、住民お互いが情報共有し、地域に誇りをもち取り組みを進めていきます。

主要施策に対する具体的な取り組みについては、実施主体及び実施時期等を示し、実施計画書としてまとめています。

#### 基本目標1. 高齢者・子供、人にやさしい暮らし

##### (1) 高齢者福祉・介護対策

###### ◆ 現状

15集落のほとんどが準限界集落になっており、少子化のなか、いずれ全集落が限界集落を迎えるのは時間の問題です。

###### ◆ 今後について

高齢者の安否確認については、民生委員の献身的な活動で、定期的に訪問確認が行われています。集落で定期的に回覧板が回されていることで隣近所のコミュニティーが形成され、有効的な安否確認の手段として存在しています。

- ① 回覧板の有効性を住民相互で確認する。(面倒くさがらず)
- ② 常日頃、独居老人等や認知症の方を地域住民で認識し、情報の共有を行う。
- ③ 敬老会の継続を行う。(内容の見直し)
- ④ 森の里クリニックの利用促進を行う。(地元の施設)・常駐医師の確保
- ⑤ 八女市乗り合いタクシー(デマンド交通)の利用促進を行う。
- ⑥ 高齢者向けの交通安全教室(免許の返納)を行う。
- ⑦ 高齢者向けの各種講座を行う。

##### (2) 子育て支援対策

###### ◆ 現状

小学生は1区の大半は徒歩で、2区・3区はスクールバスで通学しています。中学生は自転車と徒歩で通学しています。通学路は、道幅の狭い所が多く、歩道が整備されていないため、早期の改善を

求めています。また、子どもたちに、地域の良さを知ってもらうための事業を旧白木小学校の裏山や教室で開催する計画を進めています。

◆ 今後について

- ① 筑南小学校の通学合宿の支援
- ② 小中学校生の通学の安全確保の支援（タスキの支援・・・実施済み）
- ③ 旧白木小学校での体験教室・体験学習等

## 基本目標 2. 地域資源を活かしたくらし

### (1) 観光の振興

◆ 現状

現在取り組んでいるイベントを継続し、白木の持つ豊かな自然や白木住民のあたたかさを観光客にアピールし、次世代の白木を担う若者に伝えています。

◆ 今後の取り組み

- ① 白木の秋の収穫祭を行う。
- ② イベント時の募金箱設置を行う。
- ③ 農産加工品の研究を行う。
- ④ 道の駅、直売所での農産物、加工品等の販売を行う。
- ⑤ 八女市夢たちばなビレッジとの連携を行う。  
（宿泊体験・合宿時の旧白木小学校活用等）
- ⑥ 音楽フェスティバルを行う。
- ⑦ 白木の名物・名所づくりを行う。

### (2) 産業の振興

◆ 現状

農業や商工業者ともに、人口減、少子化、世帯減、若年層の流出等が原因で、後継者が育たない状況です。

商工業者においては、八女市内の大型商業施設との競争を余儀なくされ、家族経営で乗り切っている状況です。

農業従事者においては、高齢化や後継者不足、イノシシの増加で農地の荒廃（耕作放棄地）が進み、今後生産地としての生き残りが問われています。

◆ 今後の取組み

- ① 農業後継者の育成を行う。
  - ・ Iターン・Uターン者の受け入れ（営農指導）
  - ・ 退職後の営農希望者の支援
- ② 耕作放棄地の無償貸し出しを行う。
- ③ 荒廃竹林の整備を行う。
- ④ イノシシ対策の支援を行う。  
（現在、地域振興会議で保険料を補助している。）
- ⑤ 未婚農業後継者等の婚活事業を行う。
- ⑥ イノシシ肉の処理・販売（白木単独又は共同）  
（加工施設の建設費用・処理肉の販売・施設の維持管理）
- ⑦ 白木ブランドの開発を行う。（J A・行政・生産者の協働）
- ⑧ 白木ブランドの情報発信を行う。（J A・行政・生産者の協働）
- ⑨ 店からの宅配サービスを行う。（高齢者・独居老人等買物弱者救済にも貢献）

(3) 白木コミュニティーセンターの活用

◆ 現状

旧職員室

白木地区地域振興会議、行政区会、ボランティア団体青空の会で  
通年利用している。

和室

会議等や生け花教室で利用している。

大・小イベントホール

選挙時の投票場、会議、講習会、ダンスの練習等で利用している。

研修室

週1回カラオケ教室を行っている。

グラウンド

設置した健康遊具や健康促進目的のランニングを含め利用者が  
ある。

各室とも、夜間の利用が大半を占めており、利用団体が限定的  
である。福祉サロンの提案もあるが、リーダー（世話人）がいな  
い。

◆ 今後の取組み

コミュニティーセンターを地域づくりの拠点と位置づけます。

- ① 福祉サロンを立ち上げ、高齢者や地域住民の健康増進を目的に、各種教室や講座・講演会を実施する。中央公民館や社会福祉協議会と連携を行う。さらに、健康遊具の利用促進を行う。
- ② カラオケ教室だけでなく、囲碁や将棋教室などのサークル活動への利用促進を行う。
- ③ グラウンドや駐車場を利用し、ミニ収穫祭や産直市場などのイベントを開催を行う。
- ④ 以前、開催したスイーツづくりなどを行い、婚活事業との連携を行う。
- ⑤ コミュニティーセンターと旧白木小学校、八女市夢たちばなビレッジなどの観光資源と連携し、観光入込客や来訪者の増加を図る。(平成25年に1社セミナーを実施する。)

#### (4) 旧白木小学校の活用

##### ◆ 現状

グラウンド及び体育館の利用は、定期的にあります。校舎内の利用は少ない状況です。グラウンド裏山は放置状態（定期的に草刈り作業のみ実施）です。体育館地下駐車場は、現在災害時対応のため、土嚢置き場として利用しています。

##### ◆ 今後の取組み

旧白木小学校全体を、健康促進や生涯学習の拠点と位置づけ、校舎、グラウンドの整備や工事を行います。

##### 【維持管理費（市委託管理費）の増額の場合】

- ① 管理者を常駐させ、安全な施設として維持管理をする。
- ② 管理者による定期的な企画立案や事業等を推進することで利用促進を行う。

##### 【維持管理費（市委託管理費）が現状の場合】

- ① グラウンドは老朽化した児童遊具を撤去し、安全なグラウンドにする。
- ② グラウンドに設置されたステージをイベントで利用する。
- ③ 校舎は、利用団体を募集し、維持管理を各団体に委託する。
  - ・ 1階スタジオは、音楽活動スペースとする。
  - ・ 職員室は、災害発生時の消防等の指揮所及び災害時対応の支援物資の保管場所とする。(現在、白木コミュニティーセンターが一時保管場所になっているが、豪雨水害等で水没の可能性がある。)
  - ・ 和室は、災害時の避難場所とする。
  - ・ 図書室は、各家庭の不要な本を集め、読書スペースとする。(開放日限定)
  - ・ 調理室は、地域に開放し、みそ造りや地域食材の開発スペースとする。  
(白木コミュニティーセンターと連携)

- ・各教室については、白木の歴史・白木小の沿革・地域遺産の展示・発掘文化財の保管場所(一時保管)・大型展示物の移管(作ったが継続展示不可のもの)等々に利用する。
- ④ 体育館は、利用促進を図るために、フリーマーケットや音楽フェスティバルなどを行う。
- ⑤ 裏山の利活用については(現在、クヌギ・桜・銀杏・栗)、飛形自然公園の白木版として、四季折々の樹木(モミジなど)を植える。また、すくすく山(シンセンデン)の山道を整備し、自由に散策やウォーキングの場とする。

### 基本目標3. みんなで支え合う暮らし

#### (1) 地域住民の交流・健康増進・改革

##### ◆ 現状

白木スポーツフェスティバル等のスポーツ交流会には、老若男女大勢の参加で賑わっています。また白木コミュニティーセンターに健康遊具を設置するなど住民の交流・健康増進を図っています。

##### ◆ 今後の取り組み

住民が参加しやすいイベントの時期や種目を工夫し継続します。

- ① 白木スポーツフェスティバル
  - ② グラウンドゴルフ大会
  - ③ 筑南地区親善ソフトボール大会
  - ④ ラジオ体操
  - ⑤ 散策・遊歩道づくり
  - ⑥ 若年層の地域リーダー、地域活動の後継者を育成(青年団等の復活)
  - ⑦ 女性活動の活性化(女性の地域リーダーの育成)
  - ⑧ 地区区長業務の負担軽減(業務の簡素化・分散化)
- (2) 定住促進対策

IターンやUターンの方や、農業に関心のある方に、白木の自然の魅力を発信し、転入者を募る。

- ① 婚活バスツアー
- ② 空き家対策
- ③ 就農支援

## 基本目標 4. 安全安心なくらし

### (1) 夜間照明・危険場所の解消

#### ◆ 現状

防犯灯の設置は、各集落内には多数設置されてますが、主要道路上には夜間照明が不足する場所が多数あり、安全上問題な場所があります。

#### ◆ 今後の取り組み

- ① 主要道路沿線に防犯灯の増設（しらきんこ募金の活用）
- ② 防犯灯のLED照明化（老朽化・白熱球からの交換）

### (2) 防災組織の整備・防災訓練

#### ◆ 現状

この地区は、平成2年の豪雨災害や平成3年の台風17・19号で多くの被害を経験しています。その当時の消防団や自警団の活躍は目に見張るものがありました。団員の多くが農業従事者や自営業者で構成されていました。

現在、火災発生時に団員の招集もままならない状況であります。この現状は、30年前から予想されたことでもあります。その要因は退団年齢が若い事、多くの団員がサラリーマンで地区外への就労者が多い事による慢性的な団員（活動可能な団員）不足です。その問題を解消するためにエキスパート団員を導入していますが、その団員もサラリーマンが多く成果が得られていない状況であります。このことは、緊急時の動員において不安材料となっております。

#### ◆ 今後の取り組み

地区内にある消防関係に関する機材（ポンプ車等）は十分に整っています。問題は人員不足と意識の低下と考えます。

自主防災会には多くの住民が関与しており、消防団と自主防災会の連携が可能であれば多くの問題が解決すると考えます。

- ① 消防団員の地域社会での位置づけや消防団の意義を確認する。
  - ・消防団は地域のリーダー的存在である。
  - ・なぜ赤色灯の車両が消防車に付いているか・・緊急車両のみ
- ② 新入団員勧誘時の協力体制を構築する。
- ③ 消防団員の退団年齢の引き上げを行う。
- ④ エキスパート団員の再入団を行う。
- ⑤ 地区外居住者・地区外勤務者で活動不能の団員をなくす。

(但し、帰宅後活動可能な人はその限りでない。)

- ⑥ 消防団と自主防災会の共同訓練を行う。(定例開催)
  - ・避難訓練などや消火活動の連携
  - ・自主防災会の人員の多くは消防団OBである。過去の経験を若い団員に教えることや新しいポンプ車の経験も必要である。
  - ・消防団と自主防災会で申し合わせ事項の文書を交換し、継続して活動できるようにする。
- ⑦ サイレン(火災発生・非常招集)の活用を再確認する。・・・遠隔操作
- ⑧ 白木版ハザードマップを作成する。
- ⑨ 図上訓練を行う。
  - ・市指定の避難場所
  - ・行政区集落指定の避難場所
  - ・消火用の水利場所
  - ・AEDの設置場所
  - ・危険個所の確認
  - ・情報を共有し、非常時の対応を住民で確認する。
- ⑩ 特別団員(仮称)制度の導入を行う。
  - ・白木は、地域住民で守るという意識は十分にあります。また、消防に関する人員は十分確保されています。但し、実働可能な人員がないのが実情であり、自主防災会(自警団)の一部団員を特別団員とし、消防団を支援する特別団員制度を導入します。この制度により特別団員は、災害(火災時)が発生した時は、従来の旧行政区の支援のみならず、他の行政区の支援に回ることが出来ることとなります。昔は火災発生も多く、出動回数や消火活動の経験の多いOBも沢山います。制度を確立し、埋もれた財産(人材)を生かし防災に強い白木を構築していきます。

### (3) 道路・河川整備

#### 【道路】

##### ◆ 現状

県南で八女市南西部に位置し、県道4号線が南北に走り、県境を超えれば熊本県和水町に通じています。そのため、朝夕は熊本方面からの通勤、通学者の車や大型車両の往来が多い状況です。

また、国道3号線の辺春地区が、交通事故等により通行止めになるといちばん近い迂回路として交通量が多くなります。

道路の一部は、歩道併設の片側1車線で道路整備が終了している場所もあり、全体的に大型車両が離合しづらい道幅の狭い道路です。

◆ 今後の取組み

現在、一部の地域で歩道の整備や道路拡張の工事が行われています。住民の安全確保のために、歩道と中央線を確保した道路の整備を求めます。また、熊本県境のトンネル開通を要望します。

- ① 道路整備
- ② トンネル整備

【河川】

◆ 現状

平成2年の豪雨災害後、河川改修が行われ、おおむね災害に強い白木川となっています。併せて河川管理道路も整備されています。

◆ 今後の取組み

整備された管理道路を利用し、遊歩道の整備を進め、散策やウォーキングを楽しみ、景観を楽しむ地域づくりを進めます。

- ① 河川への生ごみ等の不法投棄をなくす。(意識改革)
- ② 定期的な河川清掃を行う。(地域活動・集落活動)・・・啓発
- ③ 護岸に植樹をする。(景観事業)

(4) 地域情報網の充実

◆ 現状

地域の情報を発信し親しんでいただくために白木新聞を定期的に発刊しています。

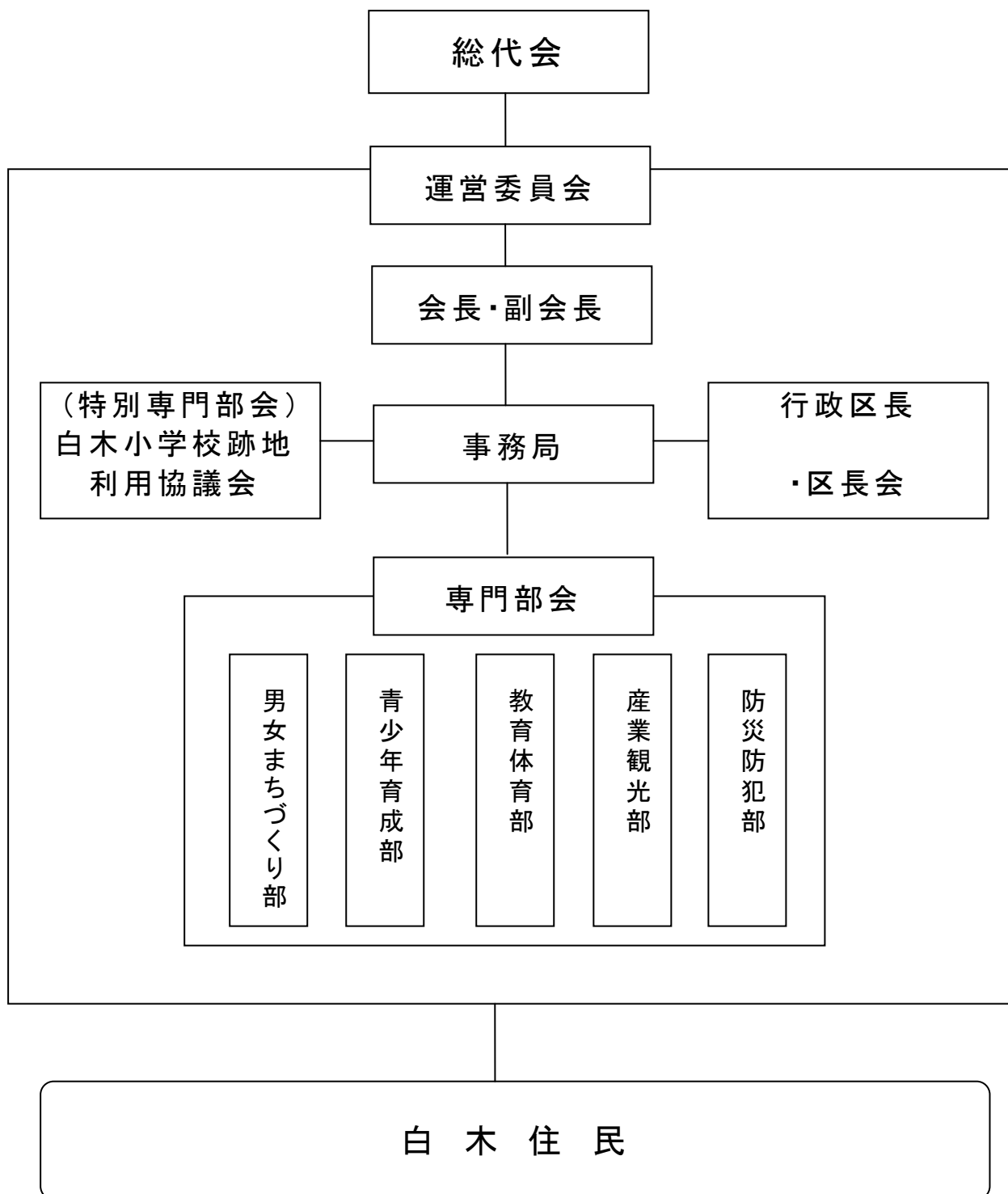
◆ 今後の取組み

地区の名所や取組みを住民に周知するために、情報発信を行います。

- ① 白木新聞を定期的に発行する。
- ② 地域の宝(資源、環境、歴史)を発掘しマップを作成する。



## 2 推進体制



## 3 取り組みのまとめ

白木地区地域振興計画実施計画書 (別紙)

# 白木地区地域振興計画実施計画書

## 基本目標 1. 高齢者・子供、人にやさしくらし

施策	具体的な取組み	実施主体	実施時期	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
高齢者福祉・介護対策	回覧板を活用した独居老人等の見守り	住民	実施中	→				
	独居老人等や認知症の方を住民で認識し情報共有を行う	住民	早めに取り組む	→				
	敬老会の継続	住民	実施中	→				
	森の里クリニックの利用促進	協働	案を練りながら	→				
	八女市乗り合いタクシーの利用促進	協働	実施中	→				
	高齢者向けの交通安全教室（免許の返納）	協働	案を練りながら	→				
	高齢者向けの各種講座の開催	協働	案を練りながら	→				
子育て支援対策	筑南小学校の通学合宿の支援	住民	実施中	→				
	小中学校生の通学の安全確保の支援	住民	実施中	→				
	旧白木小学校での体験教室・体験学習等	協働	時間をかけて	→				

## 基本目標 2. 地域資源を活かしたくらし

施策	具体的な取組み	実施主体	時期	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
観光の振興	白木の秋の収穫祭の充実	住民	実施中	→				
	イベント時の募金箱設置	住民	早めに取り組む	→				
	農産物加工品の研究	住民	案を練りながら	→				
	道の駅・直売所での販売戦略	協働	案を練りながら	→				
	八女市夢たちばなビレッジとの連携	協働	案を練りながら	→				
	音楽フェスティバルの開催	住民	実施中	→				
	白木の名物・名所づくり	住民	案を練りながら	→				
産業の振興	農業後継者の育成	協働	時間をかけて	→				
	耕作放棄地の無償貸し出し	協働	時間をかけて	→				
	荒廃竹林の整備	協働	時間をかけて	→				
	イノシシ対策の支援	協働	実施中	→				
	未婚農業後継者等の婚活事業	住民	実施中	→				
	イノシシ肉の処理・販売	協働	時間をかけて	→				
	白木ブランドの開発	協働	時間をかけて	→				
	白木ブランドの情報発信	協働	時間をかけて	→				
	宅配サービス	住民	早めに取り組む	→				
白木コミセンの活用	福祉サロンの実施	協働	案を練りながら	→				
	健康遊具利用促進	住民	早めに取り組む	→				
	サークル活動の実施（女性活動の活性化）	住民	案を練りながら	→				
	ミニ収穫祭、産直市場などの開催	住民	案を練りながら	→				
	スイーツづくり教室の実施（女性活動の活性化）	住民	案を練りながら	→				
	旧白木小学校・夢たちばなビレッジとの連携	協働	早めに取り組む	→				
旧白木小学校の活用	校舎、グラウンド、体育館の整備	行政	時間をかけて	→				
	ステージイベントの開催	住民	案を練りながら	→				
	各教室の利用者の募集（委託）	協働	時間をかけて	→				
	体育館の利用促進（フリーマーケット、音楽フェス等の企画を含む）	住民	早めに取り組む	→				
	グラウンド裏山の整備	協働	早めに取り組む	→				

# 白木地区地域振興計画実施計画書

## 基本目標 3. みんなで支え合う暮らし

施策	具体的な取組み	実施主体	時期	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
地域住民の交流・健康増進・改革	白木スポーツフェスティバル	住民	実施中	→				
	グランドゴルフ大会	住民	実施中	→				
	筑南地区親善ソフトボール大会	住民	実施中	→				
	ラジオ体操	住民	早めに取り組む		→			
	散策・遊歩道づくり	協働	早めに取り組む		→			
	若年層の地域リーダー、地域活動の後継者を育成(青年団等の復活)	住民	早めに取り組む		→			
	女性活動の活性化(女性リーダーの育成)	協働	案を練りながら			→		
	地区区長業務の負担軽減	協働	案を練りながら			→		
定住促進対策	婚活バスツアー	住民	早めに取り組む		→			
	空家対策	協働	時間をかけて				→	
	就農支援	協働	時間をかけて				→	

## 基本目標 4. 安全安心な暮らし

施策	具体的な取組み	実施主体	時期	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
夜間照明・危険場所の解消	主要道路沿線に防犯灯の整備(しらきんこ基金の活用)	協働	早めに取り組む		→			
	防犯灯のLED照明化(老朽化・白熱球からの交換)	協働	早めに取り組む		→			
防災組織の整備・防災訓練	消防団の意義の再認識	住民	早めに取り組む		→			
	消防団員の退団年齢を引き上げ	協働	早めに取り組む		→			
	エキスパート団員の再入団	住民	早めに取り組む		→			
	消防団員の見直し	住民	早めに取り組む		→			
	消防団と自主防災会の共同訓練の開催	住民	早めに取り組む		→			
	サイレンの活用の再認識(遠隔操作等)	住民	早めに取り組む		→			
	白木版ハザードマップの作成	協働	早めに取り組む		→			
	図上訓練の実施	協働	早めに取り組む		→			
	特別団員(仮称)制度を導入(消防団と自主防災会の連携団員)	協働	案を練りながら			→		
道路	道路拡張及び整備	行政	時間をかけて				→	
	県境トンネル開通	行政	時間をかけて				→	
河川	河川への生ごみ等の不法投棄をなくす	協働	早めに取り組む		→			
	河川清掃(定例実施)	協働	早めに取り組む		→			
	護岸に植樹(景観事業)	協働	案を練りながら			→		
地域情報網の充実	白木新聞の発行(定例)	住民	実施中	→				
	地域の宝(資源、環境、歴史)マップの作成	住民	案を練りながら			→		

# 白木地区まちづくりアンケート調査

実施日：平成25年7月

## 1. 配付、回収概要

### ①配付方法

◇アンケート用紙は、行政区長・区長を通じて全世帯へ配付しました。

### ②対象者

◇白木地区に住民票を有する平成25年4月1日現在で満12歳以上（中学生以上）の男女全員を対象としました。

### ③回収方法

◇記入後のアンケート用紙は、7月16日を期限に区長で回収し、行政区長に提出していただきました。

### ④配付数、回収数

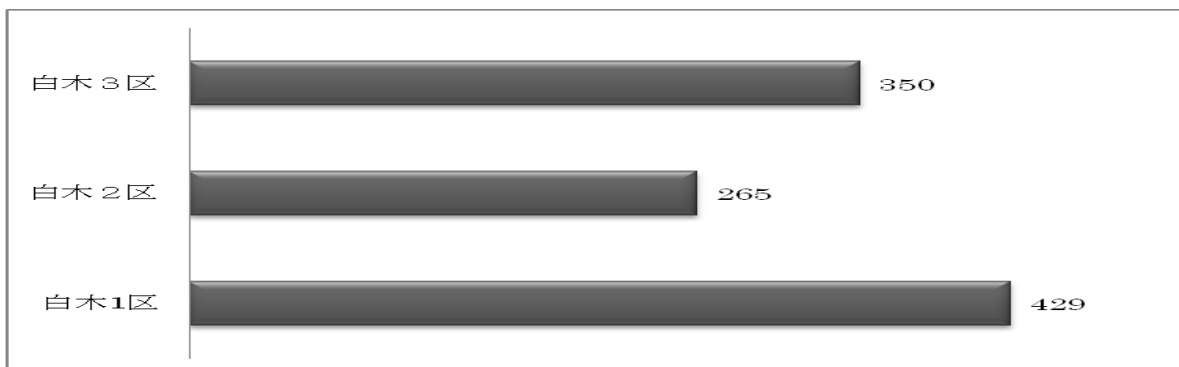
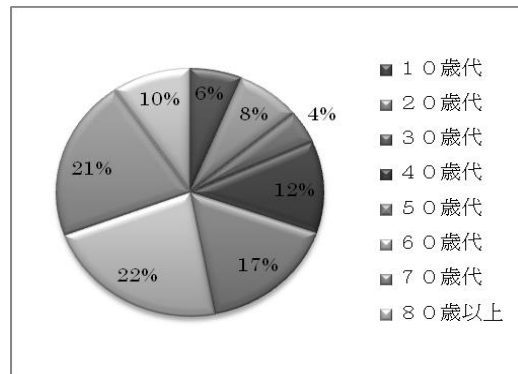
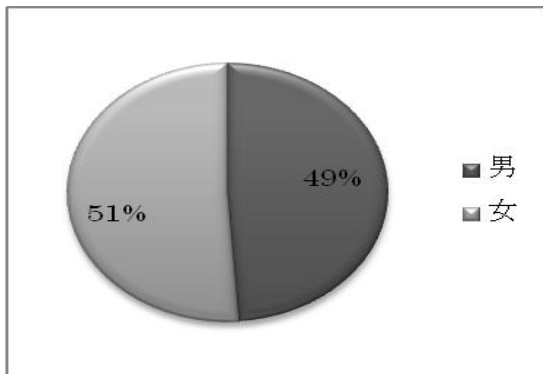
	配付数	回収数	回収率
世帯	567世帯	449世帯	79.1%
対象者	1,634人	1,044人	63.8%

## 2. 集計結果

### 1. 回答者

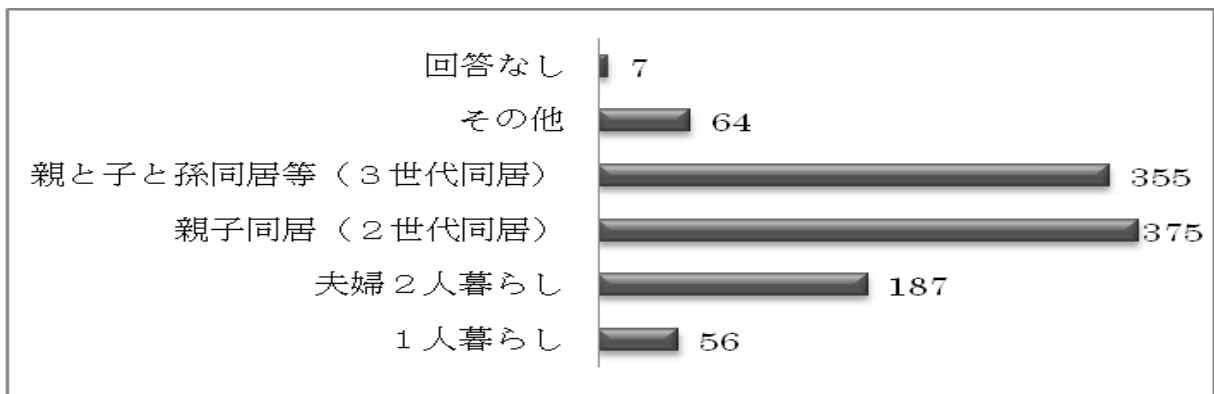
◇回答者の510名が男性、534名が女性である

◇年齢層は30歳代以下が191名（18%）、40歳代以上が853名（82%）である



## 2. 世帯構成を教えてください。

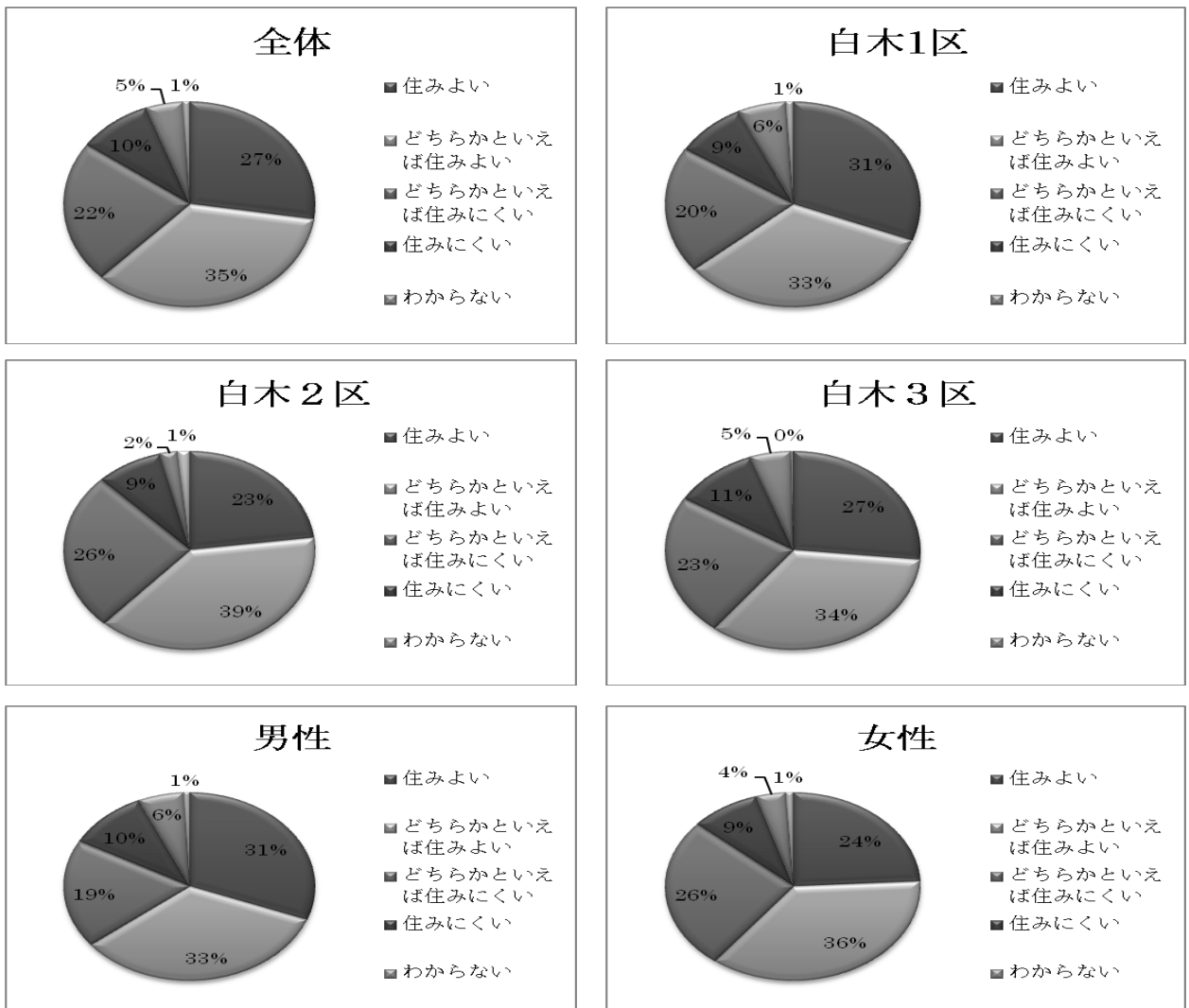
◇2世代、3世代同居が730名（69.9%）である



## 3. あなたは白木地区を住みよいと思いますか。

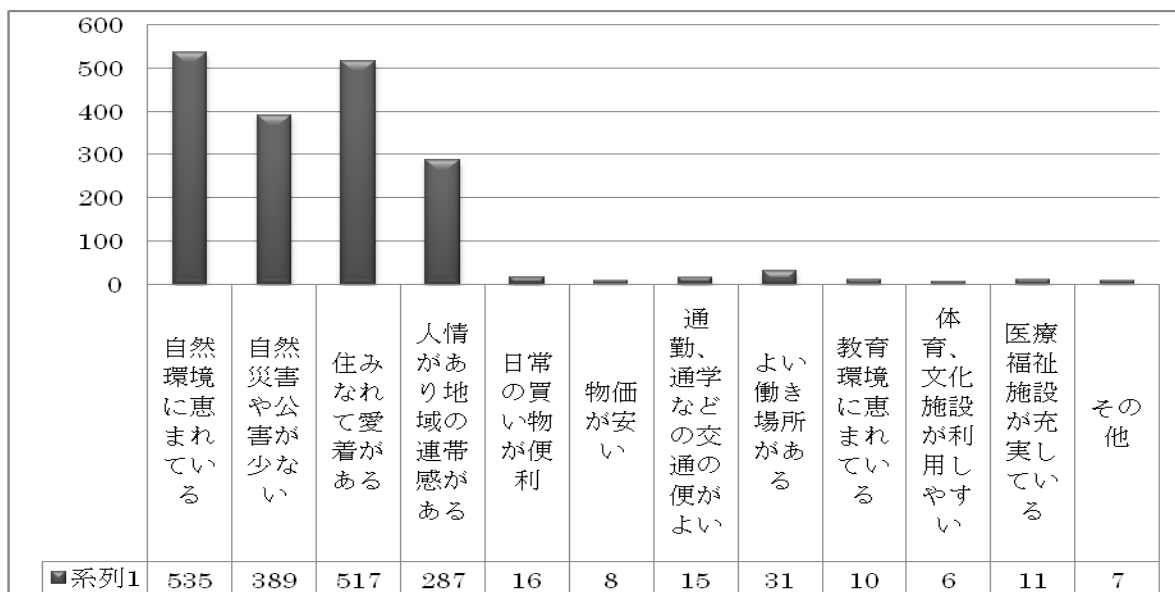
◇全体、各地区、男女ともに60%以上の住民が「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と感じている

◇男女比では、男性の方が女性より住みやすいと感じている



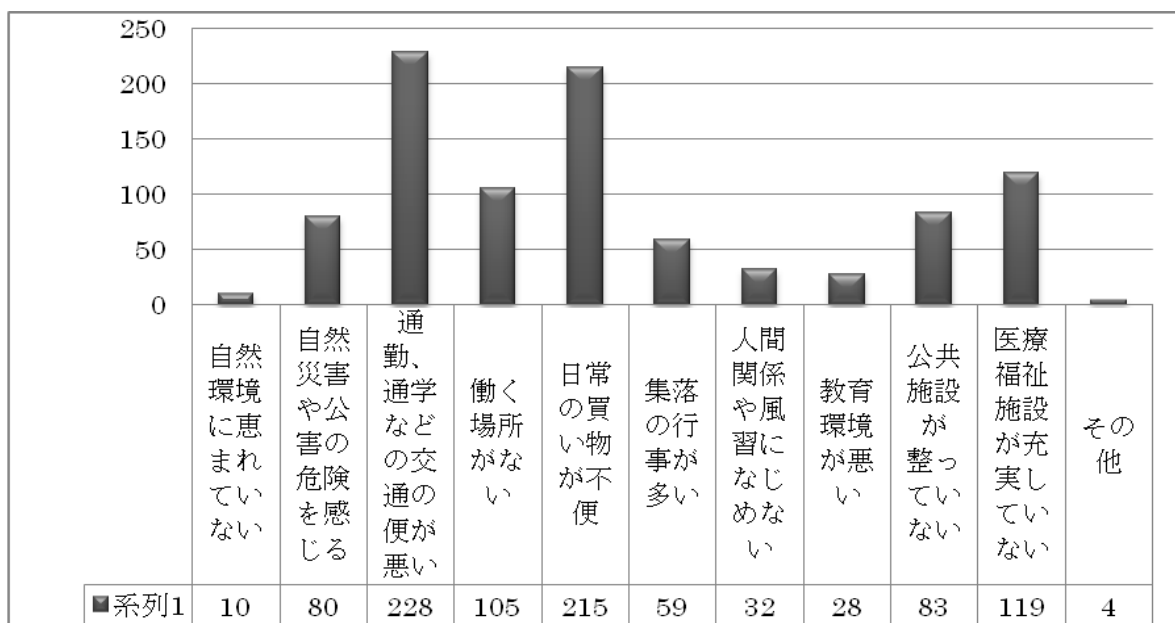
4. 問3で「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」と回答した方はその理由を3つ答えてください。

◇「住みやすさ」の主な理由は、自然環境や風土、愛着、人情などで回答の約94%を占めている



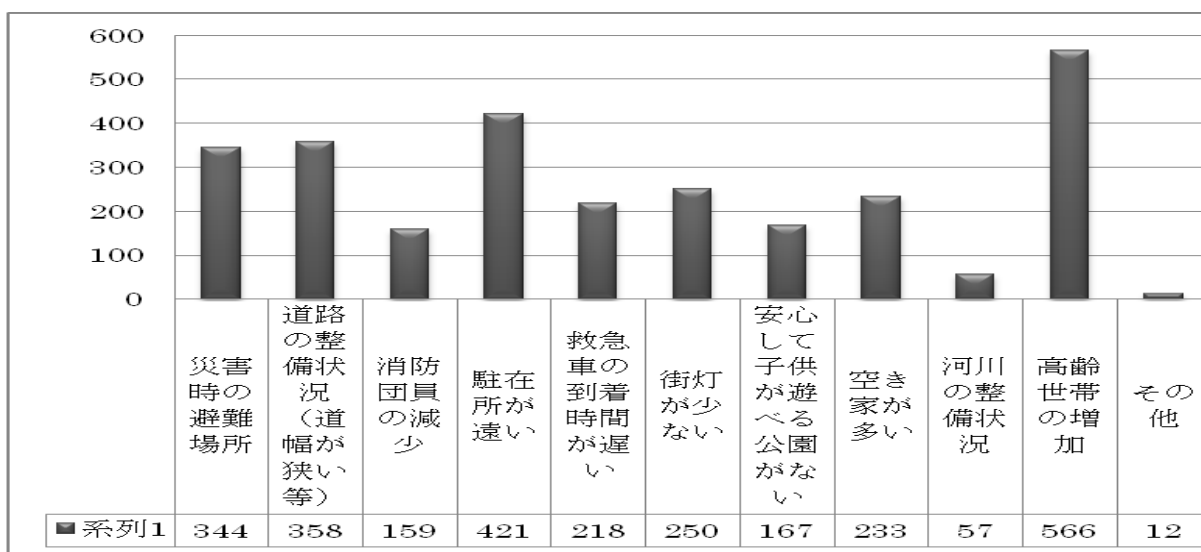
5. 問3で「住みにくい」、「どちらかといえば住みにくい」と回答した方はその理由を次の中から3つ選んでください。

◇「住みにくさ」の主な理由は、「交通の便」や「買い物」の不便さ、「雇用の場」や「医療福祉施設の不足」などが上位を占めている



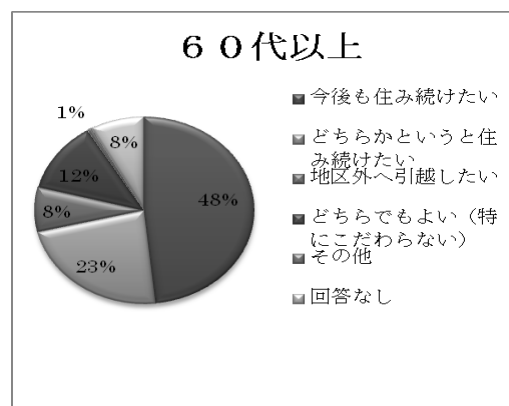
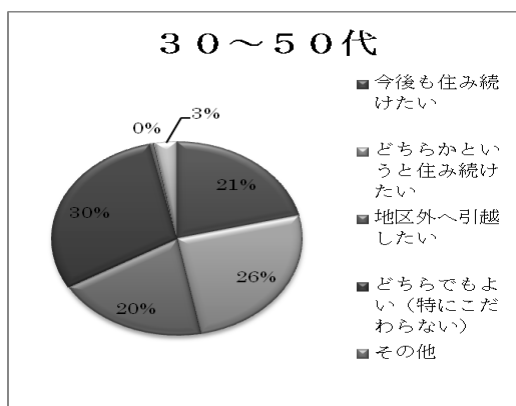
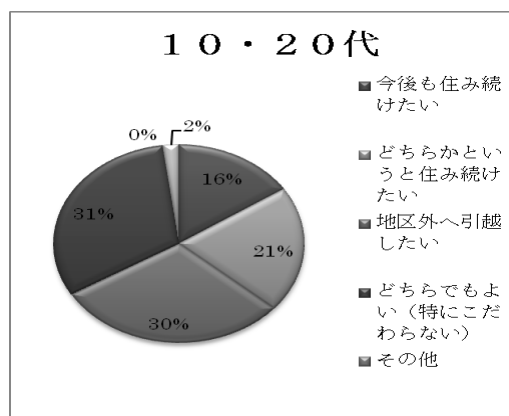
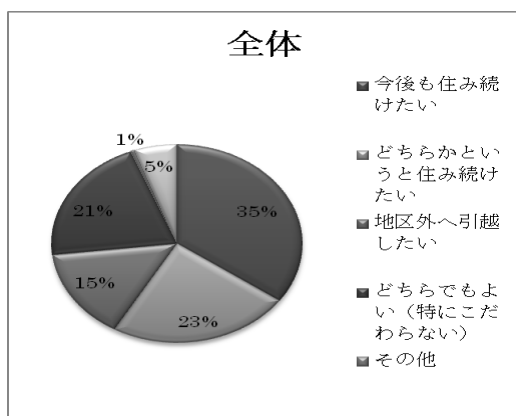
## 6. 防災・防犯について不安に感じていることは何ですか。3つ教えてください

◇ 高齢世帯の増加や防災、防犯への不安が上位を占めている



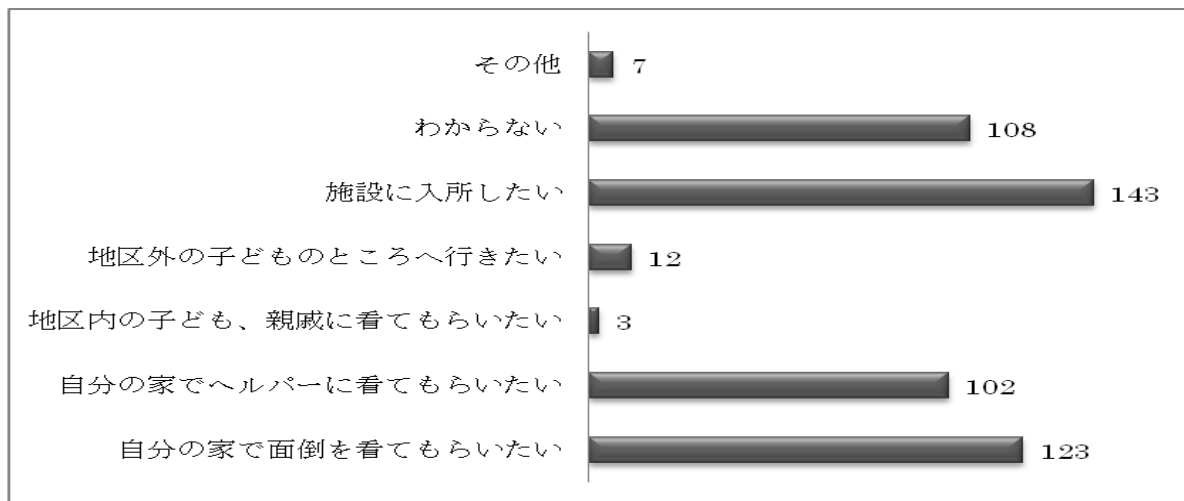
## 7. あなたはこれからも白木地区に住み続けたいと思いますか。

- ◇ 全体では約60%の住民が「今後も住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」と思っている
- ◇ 10・20代の住民は約70%が「地区外へ引越したい」「どちらでもよい」と思っている
- ◇ 60代以上の住民は約70%が「今後も住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」と思っている



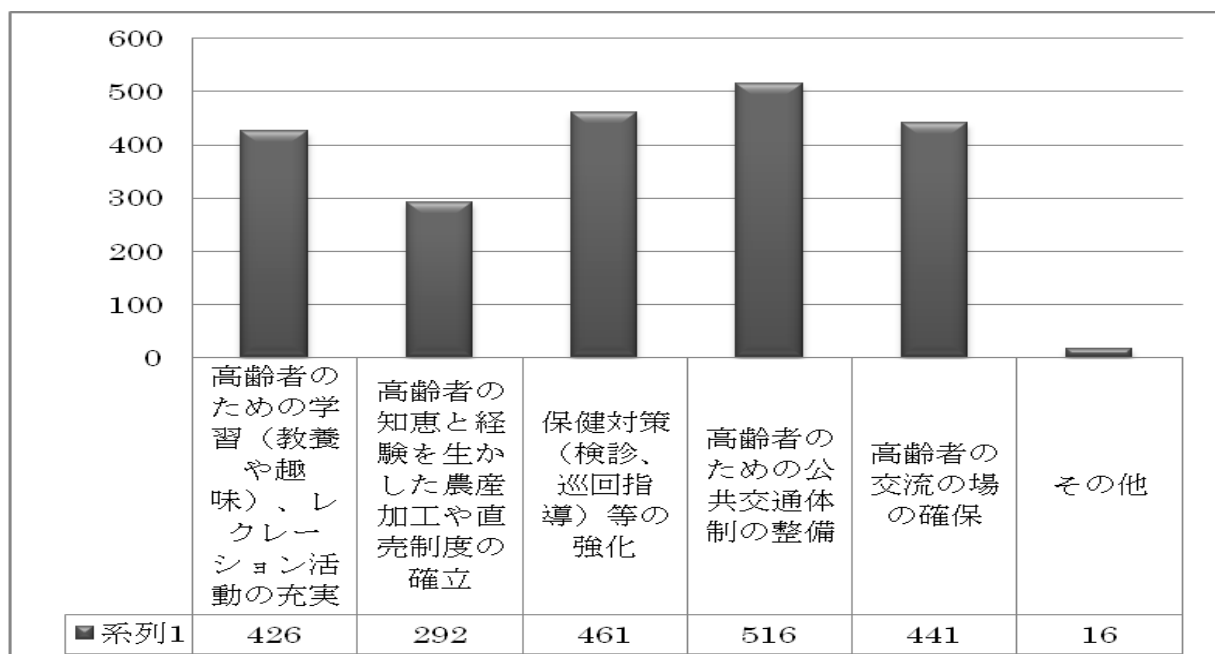
## 8. (65歳以上の方のみ) あなたに介護が必要になったらどうしたいですか。

◇ 自分の家で介護を受けたい住民は225人(45%)となっている



## 9. 高齢者の生きがい対策について、必要だと思われる項目についてお尋ねします。(複数回答)

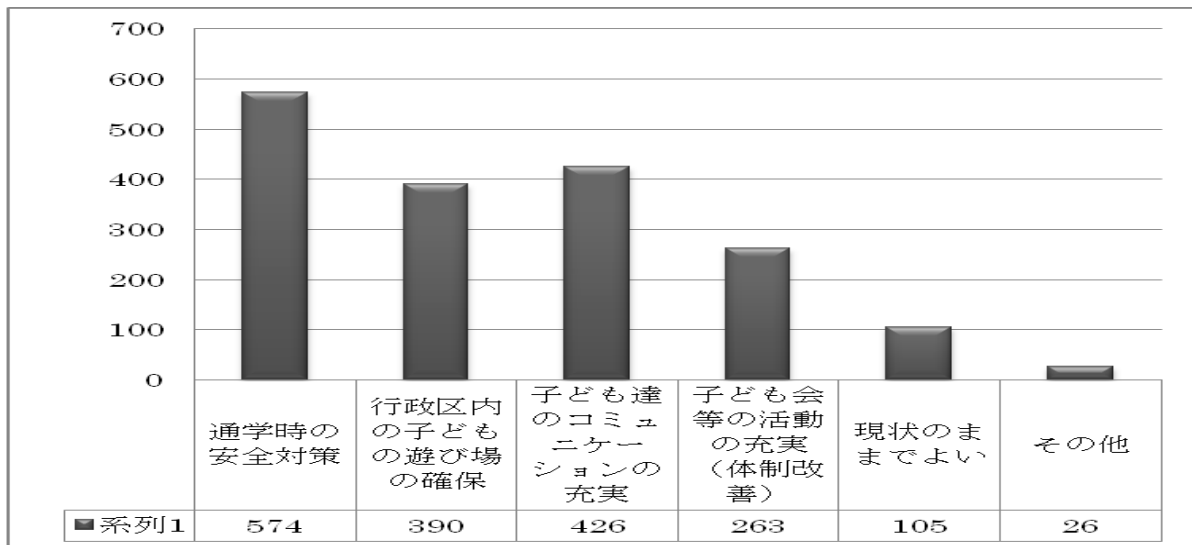
◇ 高齢者のための公共交通体制の整備が最も多いが、どの項目も必要だと感じている





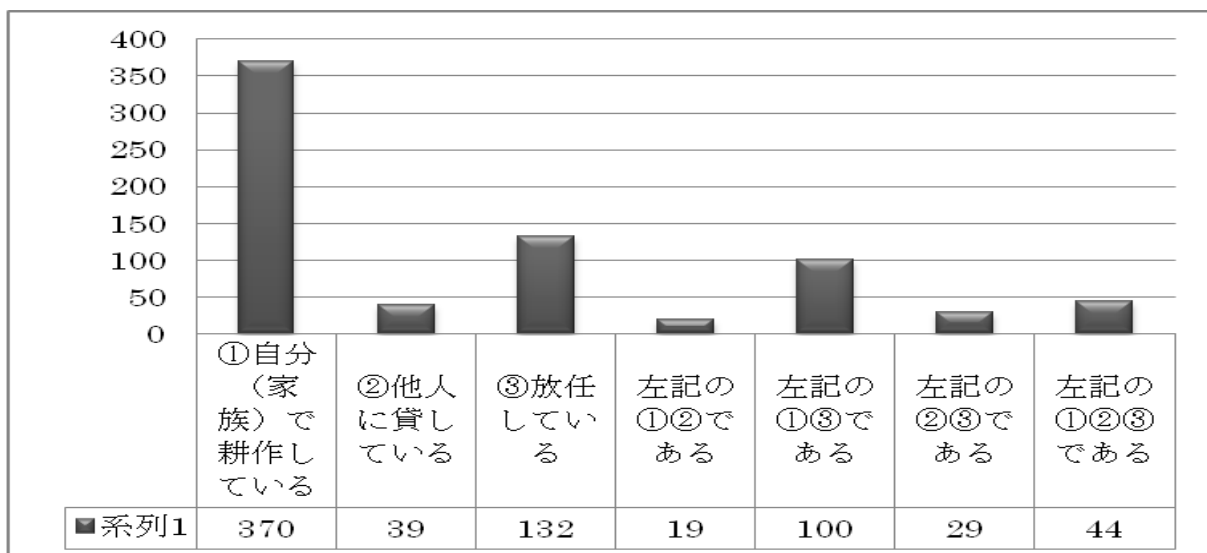
10. 子どもの育つ環境について、必要だと思われる項目についてお尋ねします。  
(複数回答)

◇ 574名(約55%)の住民が通学時の安全対策を必要と考えている



11. (農地・山林を所有されてある方のみ) 現在、農地・山林はどうしてありますか。

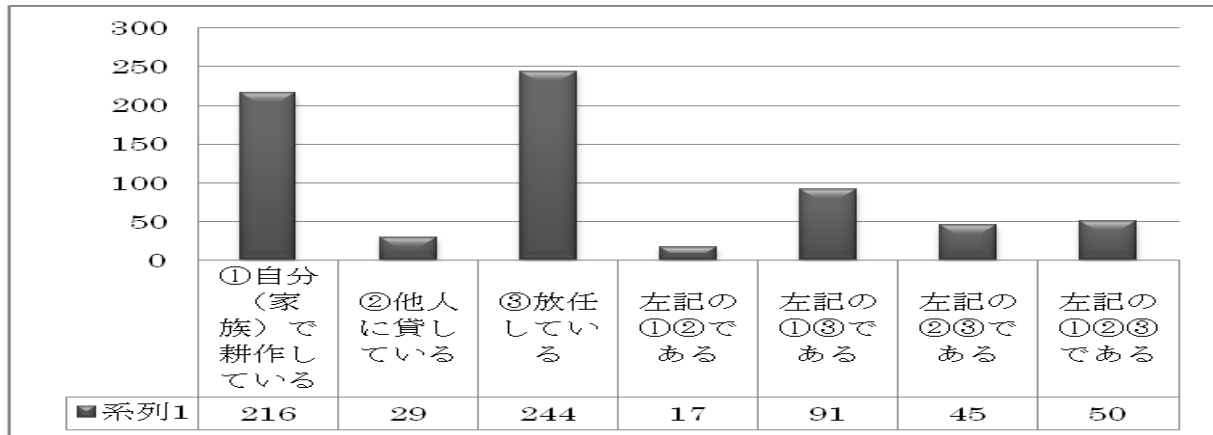
◇ 農地・山林を自分(家族)で耕作、他人に貸している住民は437名(58%)となっている



**12. (農地・山林を所有されてある方のみ) 10年後、農地・山林はどうされていますか。**

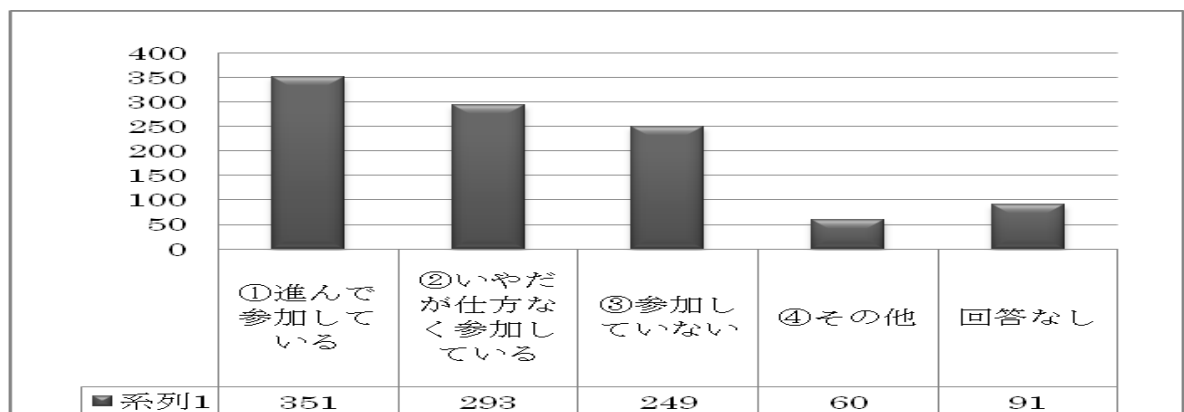
◇ 農地・山林を自分(家族)で耕作、他人に貸している住民は262名(38%)となっている

◇ 放任する、一部放任すると回答した住民は430名(62%)となっている



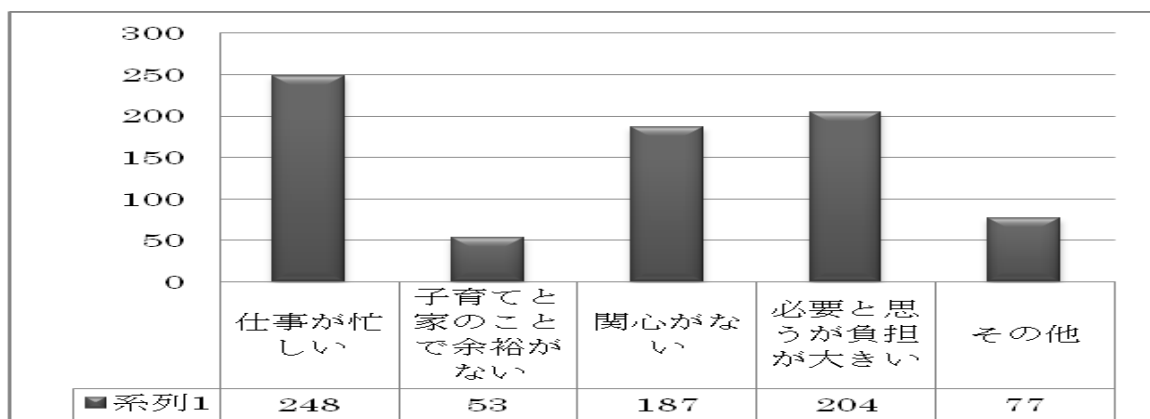
**13. あなたは、地区内の行事、出ごと、各種団体の活動についてどう思われますか。**

◇ 参加していると答えた住民は644名(61%)となっている



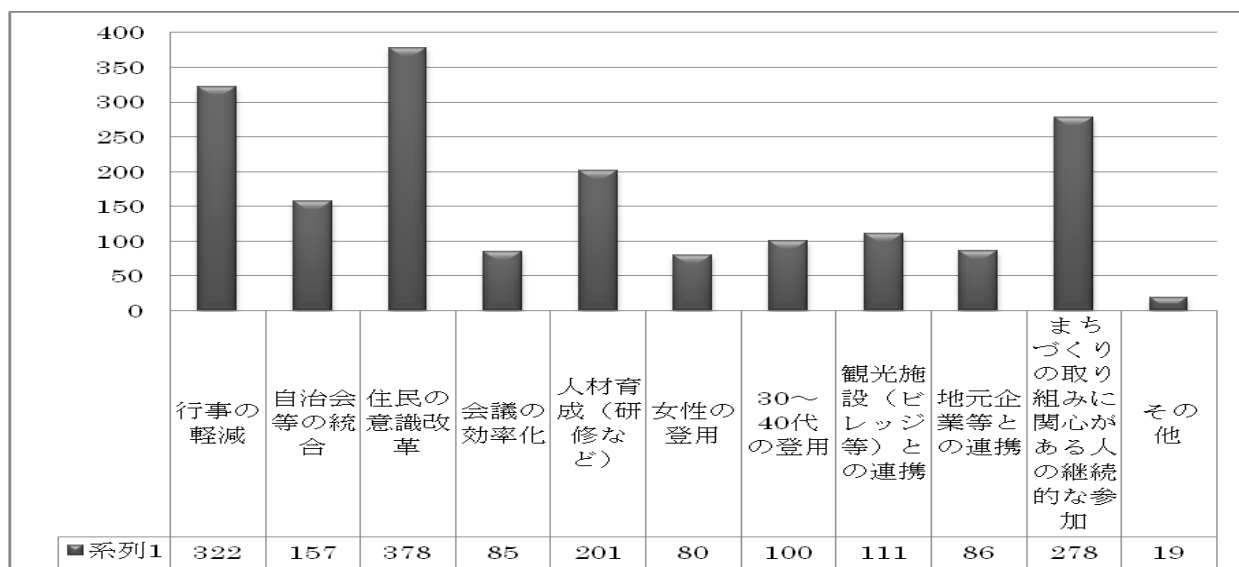
**14. 問13で②③④と回答された方のみご記入ください。理由は何ですか。**

◇ 仕事が忙しい218名(32%)、必要と思うが負担が大きい204名(27%)、関心がない187名(24%)の順となっている



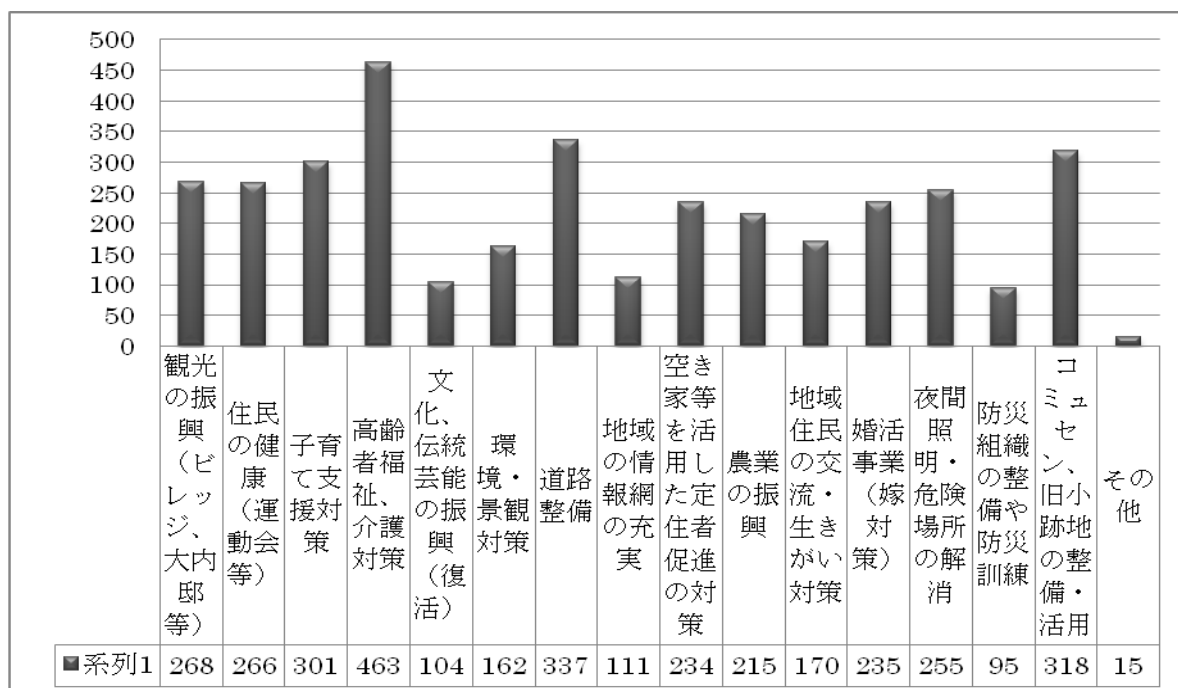
15. 地区内の行事、出ごと、各種団体の活動を活性化していく上で必要な取り組みは何だと思いますか。3つ答えて下さい。

◇ 住民の意識改革（21%）最も多く、行事の軽減（18%）の順となっている



16. 白木地区の将来に向けて、地域で取り組んでいくことが望ましいと思う事は何ですか。5つ答えてください。

◇ 高齢者福祉、介護対策463名が最も多く、道路整備、白木コミセン・旧白木小学校跡地の活用の順となっている



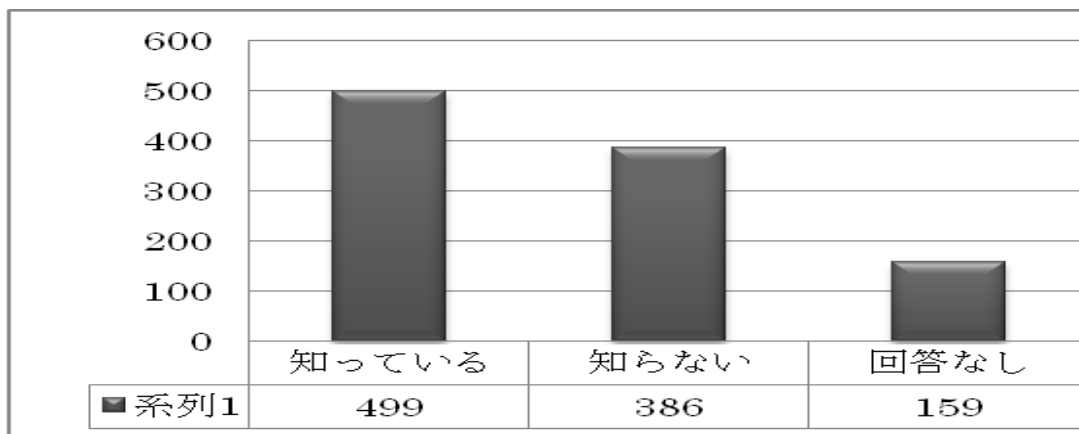
17. 白木地区のいいところは何でしょう、どこでしょう。何を伸ばしたらいいと思いますか。(場所、行事、人に関すること何でもよいです)

(別紙に添付)

**ここからは白木地区地域振興会議についての質問です。**

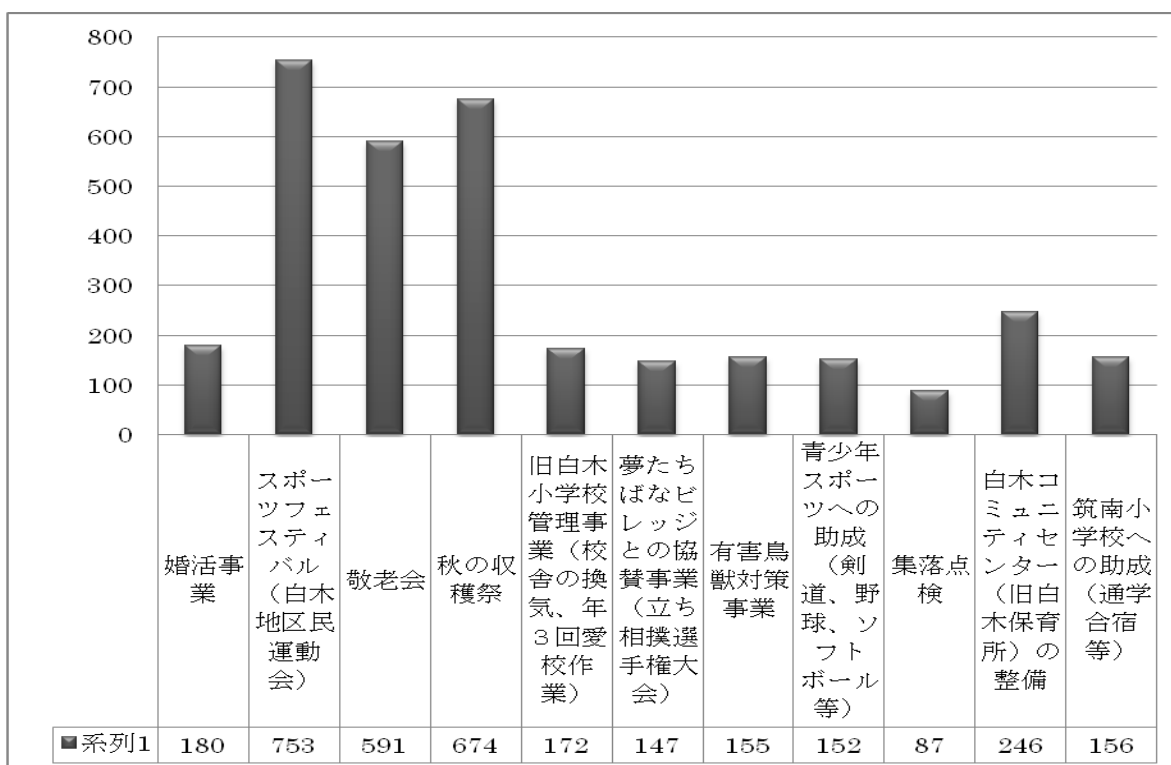
18. 白木地区地域振興会議の存在をご存知ですか。

◇ 知っている住民は499名(48%)となっている



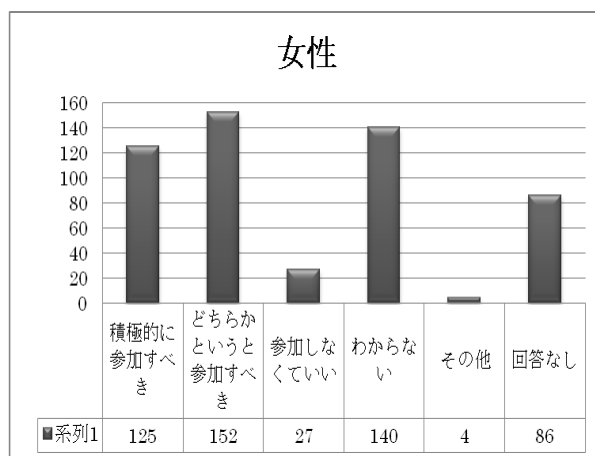
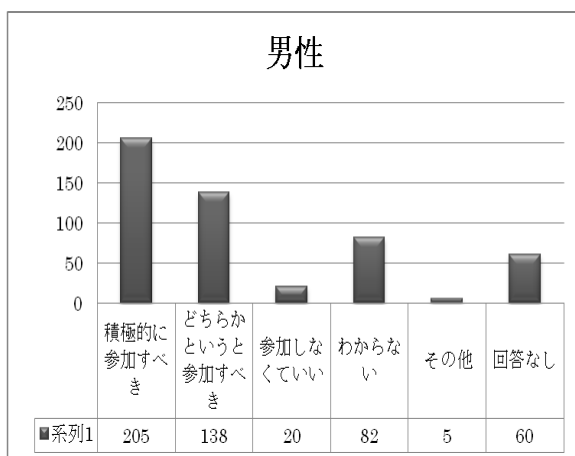
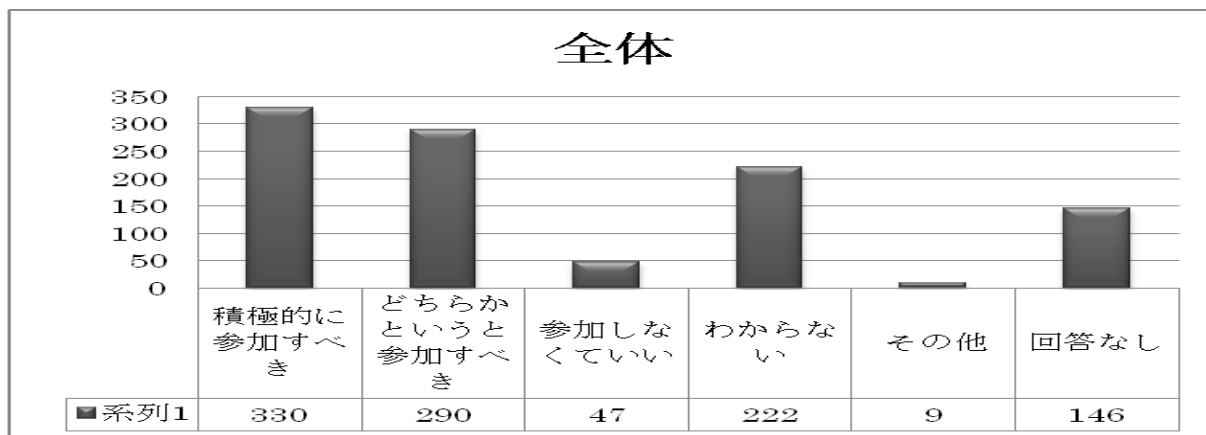
19. 平成24年度に行った事業の中でご存じのものを選んでください。(複数回答可)

◇ スポーツフェスティバル(白木地区民運動会)、敬老会、秋の収穫祭の認知度が高い



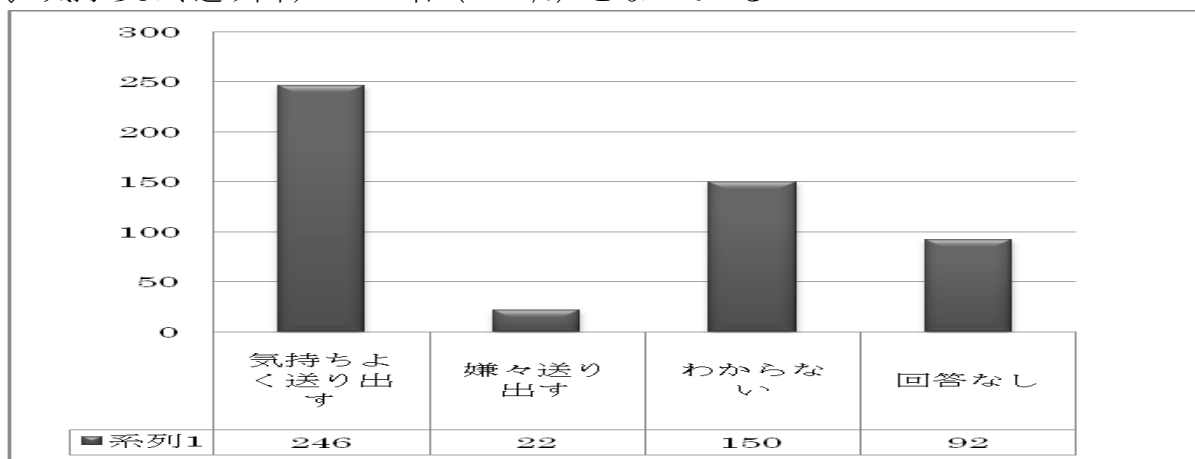
## 20. 振興会議の役員は男性がほとんどですが、女性が地域づくりなどのボランティアに参加することをどう思いますか。

- ◇ 全体では参加すべきが520名（60％）となっている
- ◇ 女性の回答は参加すべきが277名（52％）であるが、わからないが140名（26％）となっている



## 21. 女性がボランティア等に参加する時、家族はどう思いますか

- ◇ 気持ちよく送り出す246名（36％）となっている



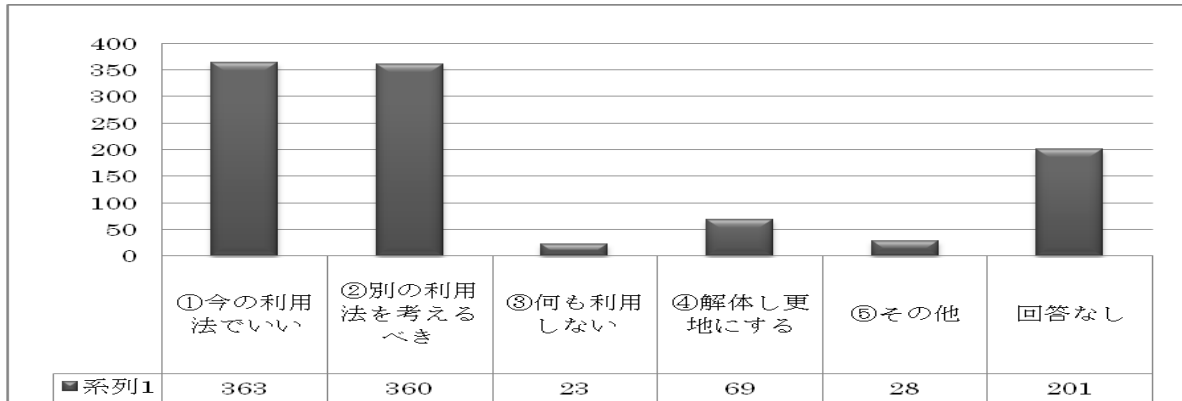
## 22. 1人1日1円募金（しらきんこ）の活用方法についてお尋ねします。

- 平成24年度の募金総額は皆様のご理解とご協力を頂き213,321円になりました。この募金の使途について皆様から提案を募集しますのでご自由に記入してください。（別紙に添付）

※ここからは旧白木小学校跡地利用についての質問です。

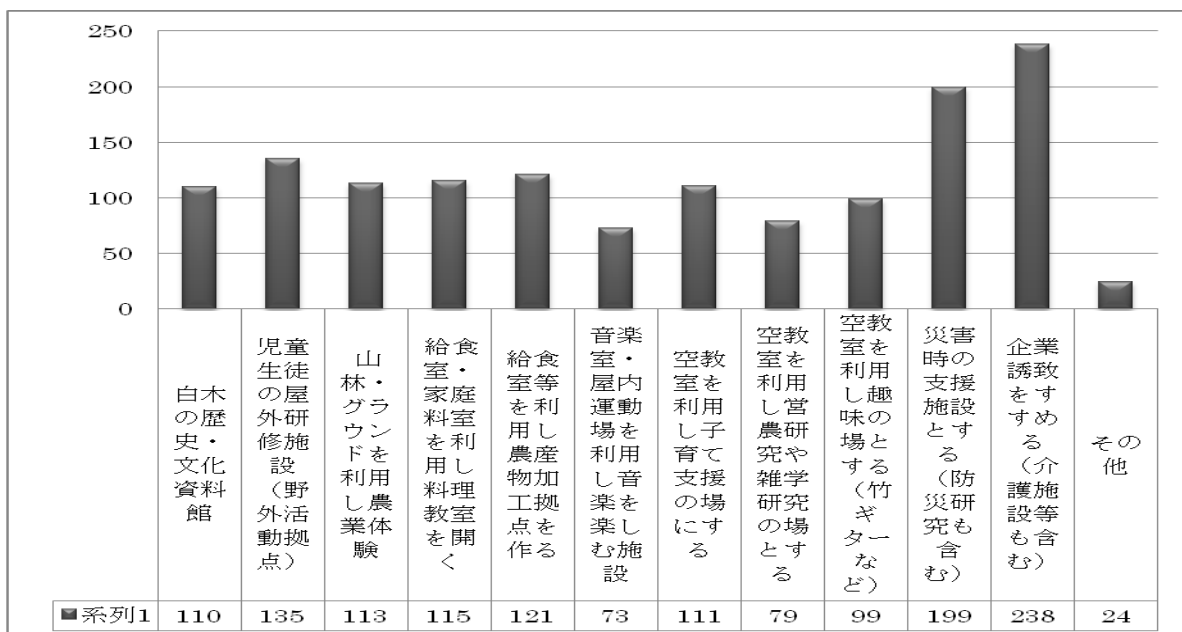
23. 現在、旧白木小学校グラウンドや体育館は地元住民の利用が活発に行われています。また、近接の白木コミュニティセンター（旧白木保育所）は、会議室、調理室、身障者トイレや屋外の幼児用遊具、健康遊具（今年夏設置予定）等様々な整備を行っており、皆さんがより利用しやすい施設を目指しています。この2つの施設の現状を踏まえて、旧白木小学校の今後の利用法についてお尋ねします。

◇ 今の利用法でいい、別の利用法を考えるべきは、ほぼ同数である



24. 問23で②と回答した方のみご記入ください。何に利用したいですか。（複数回答）

◇ 企業誘致をすすめる（介護施設等も含む）が最も多く、災害時の支援施設とする（防災研究も含む）の順となっている



25. 白木のまちづくりのためご意見がありましたらご自由に記入してください

（別紙に添付）

## 問17集約

- 『どうにか白木を良くしよう』と考えている人がいるので、その人たちの『思い』を形にしていくべき。まだまだ、将来性があるが、何もしなければ、15～20年後は住みにくくなる。今のうちに持続可能な地域を作っておかないといけないし、知恵を出し合うべき。
- JR 駅まで 20 分、IC まで 15 分、空港まで 1 時間弱、田舎ではあるが、ド田舎では無いと思います。(第 1 は、収入を増やすこと)
- いろいろな特技を持った人材の活用
- おいしいパン屋さんが何件か。手作りの靴を販売している。漫画図書館を作る。川を整備して流しそうめん。イノシシ料理。名物の確立。交通が不便であるので何かに加価値をつけわざわざでも来くなるような名物を作る(場所であったり食べ物であったり)
- きれいな川を農薬や化学性洗剤でこわさない→ホテルがいなくなる。白木は自然環境しかないのでは? 静かな環境を維持してほしい。
- スポーツフェスティバル、秋の収穫祭。
- せっかく自然があるのだから、それをアピールして都会等からの定住者を求める。アピールポイントを全国に出して人口増に取り組む。
- フェスティバルにみんなが参加出来る
- まわりは山だけど不便な所ではない
- みかん、たけのこ、キウイ、梅といった特産品があるところ
- みんなのいいところ
- 遠くの親戚より近くの他人
- 横のつながりが多い事
- 皆さんとのかく元気です。白木青年団の結成(20代)・白木夏祭りの復活。
- 環境に恵まれている
- 観光に役立つ自然環境の整備
- 観光の振興。白木の自然を中心に活用できる何かをつくれたらいいと思う。
- 旧白木小を利用し、何らかの産業、事業で雇用を確保する。
- 旧白木小跡地大いに利用
- 近くに病院やスーパーが多くある
- 近所の方との触れ合い
- 蛍が出る水がきれいなところ
- 健康のため歩くところを増やしてほしい
- 交通等、まだまだ恵まれている
- 行事をすることが地域の活性化になるとは限らない。お互い地域同士で見つめあいな

がら生活できればいい

- 行事等に参加したらけっこう楽しく、他の行政区の方とも気兼ねなく話せる
- 婚活事業が大事だと思います
- 災害も少なく、空気は良いし、もっと人が住める様にしたい。空家の利用。
- 子供が自然に触れる自然体験活動を充実させる。
- 子供が集まる機会を増やしてほしい。
- 子供が少ないので、花火大会、盆踊りなどの復活もあると思います。
- 私にとって住みよいところです。45年になりますから。
- 自然がいっぱい、緑が多く空気が美味しい。鳥のさえずりがよく聞こえる。人情あふれる人が多い
- 自然が多い、小学校やビレッジ等野外活動施設。川で遊べるを充実させ、小中学校に利用してもらおう。
- 自然が多い。人が集まってくる様な町づくり。癒しの場としてPRできれば、なお良い。
- 自然が多いので、たちばなビレッジを活用し観光の振興を伸ばしたら良いと思う。
- 自然が多いので、山村留学など行ってはどうか。
- 自然が多いのでそれに少し手を入れてもっとすばらしくする。
- 自然が多いので自然をレクリエーション化したほうが良い
- 自然が多く、空気が綺麗。ほとんどが農業従事者と思われるので、JAの指導者を増やし末端への指導が行き届くようにするべき。指導者が園地を回れば手入れしようという気持ちも続くのではないか。
- 自然が多く、人柄が良い。何かする時は団結できる。
- 自然が多く、騒音が少ないところ。ゆっくりできてよいと思う。
- 自然が多く、八女中心や駅にも近い。災害の影響が少ない。
- 伸ばすところは、もっと若い人を白木地区に集め白木を活性化する。
- 自然環境が良く、飛形山公園は景観もよく、歴史もあるところなので、観光資源としてのポテンシャルは十二分にあると思う。地区を振興させるには、農作物、それを使った加工品ばかりでなく、工芸品や郷土料理、古民家遺跡見学等「合わせ板」で名所化していく戦略が必要と思う。
- 自然環境に恵まれていることを大切にして、暮らしやすい、楽しい白木を目指して、Uターン家族ができるような地区にして欲しい。
- 自分たちの道路でありながら、道にものを置いてあるところが多いので、道路をスッキリさせたら、まだ白木が美しくなると思う。
- 若者を地元で定住させる
- 人がいいし人情がある。現在色々なグループがそれぞれ活動していますが、今後はその小さなグループが一緒になって大きな活動をしたい。まずは小さなグループ同士が仲良くなること。



- 人が少ないのがよい
- 人の心が良い。住みやすい、行事がたのしい
- 人間と自然との共存
- 大道谷の里、ビレッジ、旧大内邸などの施設を利用し、地元の自然と人の魅力をアピールし、多くの人を白木に招く行事などを考える
- 竹林の整備
- 伝統的な祭行事が今後も続けられるよう努めていくことが大事
- 都会に比較的近い田舎である
- 土地がいっぱいあること、利用できる建物（元白木小・空家など）がある。人と人の交流をたくさんし、いろいろなイベントを企画して欲しい。
- 農作物が多い
- 白木のイベントや行事に比較的若い世代の人たちが自発的又意欲的に参加し取組まれていることは素晴らしいと思う
- 八女市内に行くにも15分程度で行けて高速利用もしやすい。白木地区の行事に参加意識の向上が伸ばせたらいいと思う
- 八女市内に若い人が働く場所を確保。企業の誘致
- 未婚者が多いので婚活事業に力を入れてほしい。子供が少なくなってきているので心配している

## 問22集約

- グループでイベントに参加する時の簡易テントの貸出しをして欲しい
- 白木を花いっぱい地区にしたい。全家庭の庭や空地など至る所に種をまいて四季の花が楽しめる様にする。他の地区からも見学者が来るように一年中咲かせたい。
- AED の設置数をふやす
- イベント 有名な歌手を呼ぶ
- イベント用の備品を購入
- ゴミ出し場所の徹底
- これからの未来を歩いていく人たち（若い人や子供）に役に立つようなことをやって欲しい。
- そば打ち体験等の材料費
- とりあえず貯金
- フェスティバルや収穫祭に使う
- ボランティアの人たちの飲食代
- もう少し募金を続けて現実的な額にする
- もっと子供の遊び場や若い人（お嫁に来られた人）などの交流の場を作ったり、そのためのイベントなどに使う
- 案内する看板などに使う
- 育児基金に充てたい
- 一人暮らしの老人に月 1 回お弁当をおくる
- 過疎化対策のため大きな事業をする（貯める）
- 街灯の増設
- 学校、福祉施設の充実に使用する
- 学校にあげて勉強しやすい学校にする。住人にあげる
- 学校の図書の実を充実を図る
- 学校図書室はよいと思う。学校遊具の整備、地域に花を植える
- 株を購入
- 旧白木小学校のグラウンド横のトイレの改善、水洗トイレ望む
- 旧白木小跡地利用に使ったらどうでしょうか。しめ縄作り、わらじ作りなど、高齢者の方に指導を頼むとか、材料費等
- 去年の水害で出た損害の整備
- 敬老会に使う
- 結婚の祝い金。出産の祝い金
- 健康な高齢者夫婦にプレゼントする（85 才以上）
- 高齢者の為の交通機関を充実させてほしい

- 婚活事業の世話人に成功報酬を渡す
- 婚活事業をして、白木に子供たちが増えるようにする
- 災害支援の為に貯金して、自治会会長判断の支援資金とする
- 子どもに何か贈る（鉛筆、ノートなど）
- 子供達の遊び場の整備、遊具等
- 若いものが白木はいいなと思えるような事に使って欲しい。年寄りも大事だが、若者が白木に残ることが大事。
- 収穫祭やスポーツフェスティバルなどのイベントに使う
- 住民の暮らしを守るため使ったほうがいい。
- 乗合バスの利用に助成
- 色々な行事をする時に使う
- 水道整備
- 世界のどこかの難民の方へ送りたい（ワクチンなどに替えて）
- 世話人の手当てに当てる
- 全体会（飲み会）の一部金に
- 多忙な人のために保育所などを活用して年寄りを預かってほしい
- 筑南小学校へのバスの停留所の印を予算の関係で順次進めていく
- 道筋に花・木を植えてもらいたい
- 道路の整備
- 白木コミュニティーセンターなどに花壇を作る。遊具を置く。→みんなのいこいの場になればいい。
- 白木に住むことを条件として結婚祝い金
- 白木の案内板をあげる。白木をPRしてよく知ってもらおう。
- 白木は山に囲まれイノシシの荒らし方がひどく、家庭菜園ですら難しくなってきた。年間を通して対策してほしい。
- 白木も高齢化が進み高齢者の1人暮らし、高齢者夫婦だけの世帯が多い。これは今後もっと多くなると予想される。1人暮らしなどになった時、社会から「孤立」しないような地域づくりを旧小学校、保育所を利用しつつ進めるのに使ってほしい。
- 八女市のバスを無料にしてどこでも行ける場所。バスを多くする。
- 福島の被災地の支援（使途の明確な物について）
- 防犯灯のLED化は、電気代低減の観点からも早々に交換した方が良いです。公共設備費に使うのも良いですが、保留して一定額まで上げて、大きな物を購入するという使い方も良いと思います。
- 防犯灯の数を増やしてほしい

## 問25集約

- 前向きに取り組んでいただき感謝します。協力できることがあれば手伝います。
- 白木に小倉谷団地のようなところが出来れば、結婚して親と同居しなくても白木に住む若い世代が増えると思う。
- 白木のみんなが集まり、コミュニケーションをする場を、イベントをいろいろ試みる。
- 1人で色々考えてもいいアイデアが浮かばないが、少人数の会議や雑談をすると次々に意見が出る。まずは個人の意見をどんどん出してもらい意見が取り上げられたら益々活動に身が入ると思う。今後も白木からの流出が続くと思われるが将来白木に残ってよかったと思われるように「しらきんそちから」で白木をより住みよい地域にしたいと思う。
- いつでも誰でも立ち寄れる（場）を作って、白木の人間が何に困っているか、何を求めているかを、随時キャッチできるようにする。地域の様々な「強み」を発掘して上手に使う。少子高齢に加えて多様で小ロットなニーズがあるので自由度の高い、自治組織の構築が必要。行政には出来ない『遊び心』も必要。
- コミセンを葬儀場として活用してほしい
- コンビニつくりましょう。不便です。よろしく。
- どのような事を行っているのか全く知らないので、やっている事などをもっとアピールしてほしい。まちづくりに全員が参加したいと思えるようなものかを考えてほしい。
- まだ高校生で忙しいので、大人になったら白木のことを考えていきます。
- もっと大きな町おこしをやるべき。このままでは村がすたれていく。
- 安全な食とか、農業体験子育て支援に跡地使用すべきだとおもいます。
- 一人暮らしの老人が多いので買物の配達をしてほしい
- 何をどうして良いのかわからないのが本音で役員さんに感謝します。
- 過疎化が一気に進んでいるように感じる。以前のような活気ある白木を目指すぞんしんなアイデアに期待します。
- 各集落に来て常会等で地域振興会議の活動等を報告しアピールしたらどうか。まだ知らない人が多いように思う。スタッフのみなさんは一生懸命世話しておられるのに。
- 経済の活性なくして振興なし。文化活動の低い所の発展はおそい。
- 健康ジムなど簡単に利用できる場所を作ってもらいたい。
- 白木地区を行政区名表示立てて欲しい。自治会と協議して。
- 行事や出ごとを増やさないでほしい
- 行事等には参加したいと思います。地元の参加者の底辺が広がるよう、大変でしょうが頑張ってください。
- 高齢者の住みよいまちであってほしい。
- 婚活事業を大いにしてください。

- 三加和へのトンネルを建設してほしい
- 子供の遊び場やレジャー施設を増やして欲しい。
- 自然にあった温泉施設の建設。
- 自然を生かし、山の中のカフェや農業体験のできる宿泊施設等があれば、足を延ばす人が増え、活性化するのでは？
- 鹿伏地区で行われた、“どこも田中さん”のようなところを何箇所か
- 若い人たちが戻ってこれるような魅力的な白木にする為若い人たちが楽しめるような事業施設など増やすべき
- 若い男女にもっと活動してもらいたい
- 若者と高齢者のつながり（キズナ）のあるまち
- 周りの人に白木を出る人が多く、根本的に考えないと大変なのかも
- 小学校や道路にもっと桜の木を増やし桜の名所にし、満開時には白木全体で小学校で花見をする。
- 森の里クリニックを月曜日から土曜日まで毎日診療して欲しい。
- 地域の活動については、小学生10代のうちから参加させるべきだと思います。それが、地域の一員という自覚を持たせ、また、白木に愛着を持つことにつながると思います。子供のうちからやらせないという意味がありません。”地域教育”とはそういうことです。
- 田舎の自然を活かしたアスレチックパークみたいななのをつくる。
- 電気代のタダになる白木
- 道路整備（道路が草で覆われている）
- 年をとったら考えがあっても体が動かない。若い人は忙しいと思うが、白木のため頑張るって欲しい。活気が欲しい。
- 白木がひとつになったら良いと思う。ひとりひとりのアイデアをもっと出して欲しい。
- 白木だけでなく、八女市単位の考え方で活性化を目指す。
- 白木にお店を増やしてください。バスなどもたくさん出してください。
- 白木のいい所マップがあるといいと思います。
- 白木をもっと活性化して、みんなが住みやすい集まってくる環境作りをお願いします。
- 白木小を集団宿泊訓練で活用できる場所に
- 白木地区のイベント等に多くの参加されるよう手段すること。
- 白木内に老人ホームができたらいいです
- 飛形山公園への道路の整備
- 民泊での体験学習のプランで修学旅行生を呼ぶ
- 役員の方々は大変だと思いますが、白木の為頑張ってくださいよう、お願いします。
- 友達グループが各地区に何組もあると思います。そのグループで何かしら有意義なことをやり、その輪をひろげていったら白木全体をひとつの輪にしたらいいいのでは？

## 白木地区地域振興計画

発 行 平成26年3月31日  
企画・編集 白木地区地域振興会議

※この計画書は八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。